



日銀欧州三事務所・ 鉄道ネットワーク時代の幕開け



ロンドンと欧州大陸を結ぶ
国際高速列車「ユーロスター」



2007年11月、ユーロスターの
発着駅となったセント・パンクラス駅

欧州には、ロンドン、パリ、フランクフルトの3都市に日本銀行の事務所が置かれています。今まで事務所間の移動手段は、ロンドン・パリ間を除けば航空機に限られていました。しかし、これからは、鉄道にも選択肢が広がります。

欧州において、鉄道は、主要都市間を移動する際の交通手段として欠くことのできない存在です。ライバルである航空機との比較では、排出ガスの少なさや、乗降手続きの簡便さから、鉄道の優位性が一段と強まっています。

欧州には時速200km以上の高速運転が可能なネットワークが張り巡らされていますが、ここ島国英国の首都であるロンドンもその域外にはありません。ロンドンが欧州高速鉄道ネットワークに組み込まれたのは、ドーバー海峡トンネルが貫通し、パリ、ブリュッセルを結ぶユーロスターが運行を開始した1994年11月のことでした。爾来、英国内では高速鉄道専用線の整備が遅れ、ユーロスターが本来のスピードを発揮できないままでした。しかし、2007年11月、ようやくロンドン市内からドーバー海峡間の高速鉄道専用線が全線開通しました。これにより、パリへの所要時間は20分短縮され、2時間15分となりました。

それに先立つ2007年6月、フランス北東部では世界最高時速の320kmでの運行が可能な高速鉄道専用線が開通しました。これによってパリ・フランクフルト間の所要時間は一気に2時間半短縮され、3時間50分となりました。最も距離が離れているロンドン・フランクフルト間も、2008年には、ブリュッセル・ケルン間の高速鉄道専用線開通により、所要時間は1時間短縮され、4時間強となります。

2007年、2008年は、日銀欧州3事務所・鉄道ネットワーク時代の幕開けの年として記憶されることになるでしょう。

(日本銀行ロンドン事務所)



世界最高時速を誇るフランスのTGV